

ネットワークアンケート ④④

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 高齢患者さんへの対応(治療・指導)について、不安を感じることはありますか？

糖尿病患者さんも高齢になれば要介護や認知症で通院・治療継続が難しくなったり、視力の衰えから上手く注射ができなくなったりと、様々な問題にぶつかります。高齢化が進むなか、今後高齢患者さんに対して医療スタッフはどのように対応していけばよいのか。そして患者さん自身はどう考えているのか、今回のアンケートではその意識をうかがってみました。

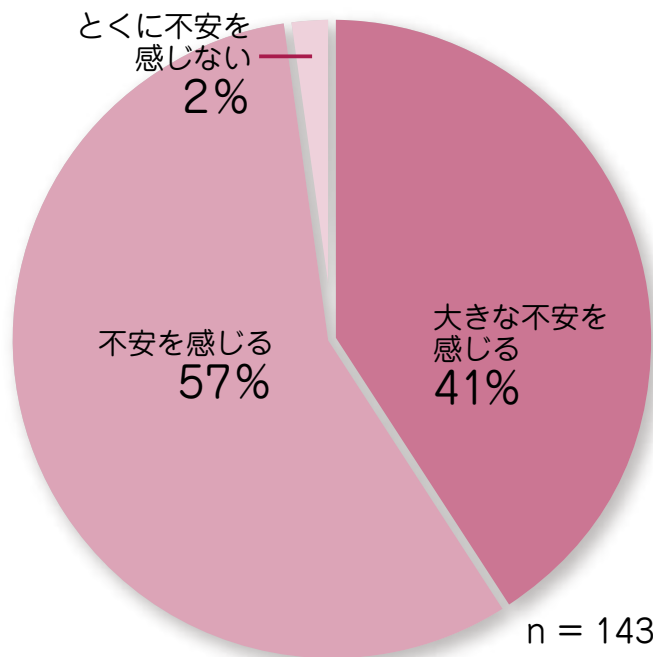
[回答数：医療スタッフ143名(医師24、看護師62、管理栄養士32、薬剤師12、臨床検査技師6、その他7など。うち日本糖尿病療養指導士46、糖尿病看護認定看護師14)、患者さんやその家族404名(病態/1型糖尿病127、2型糖尿病261、境界型9、その他7、治療内容/食事療法283、運動療法246、経口薬234、注射薬21、インスリン療法235/重複回答有)]

ほとんどの方が「不安を感じている」と回答しました。そして、高齢患者さんの深刻な問題として「飲み薬やインスリン注射を指示通り服薬できるか」、「認知症や要介護になった時の在宅治療」、「身近にサポートしてくれる人がいるか」といったことが最も大きいと答えています。また、特に注意すべきこととしては、「低血糖や脱水などによる急変」、「処方薬を忘れず指示通り服用しているか」、「家族との関係性」、「指導内容に対する理解・認知の変化」といったことが上位に挙がり、投薬管理について強く危

惧する様子がうかがえました。

認知症や要介護で通院できなくなった場合、誰が中心となって投薬管理をサポートすることが多いかを聞いてみると、70%が「家族や親族」と答え、「介護保険による各種在宅サービスのスタッフ」が57%、「在宅医療・訪問看護の医師や医療スタッフ」が45%との認識でした。

自由記述では、「独居老人の対処が最も大きな問題と感じている」、「患者の面倒を



みている家族をサポートするシステムの欠如。共倒れの危険性がある」、「服薬管理が難しくなるので、薬の数はなるべく減らし、内服も一包化等の工夫が必要」、「夫婦共働きで在宅介護をしている場合、昼間の食事や血糖管理、万が一のトラブルなどにどう対処したら良いのかよく相談される」など多くの意見が寄せられました。

Q. 高齢の患者さんに対して特に注意すべきと思うこと

(n=143 複数回答可)

低血糖や脱水などによる急変	69%
処方薬を指示通り服用しているか	64%
家族との関係性	53%
指導内容に対する理解・認知の変化	52%
薬の内容や量は適正か	38%
年齢や体力相応の食事・運動療法	25%
合併症や併発症の進行	23%
医療費負担の工夫	12%
とくにない	1%
その他	3%

Q. 通院困難の患者さんには、どなたが中心となり投薬管理をサポートされることが多いですか？

(n=143 複数回答可)

ご家族や親族	70%
介護保険による各種在宅サービスのスタッフ	57%
在宅医療・訪問看護の医師・医療スタッフ	45%
各種介護施設のスタッフ	38%
通院先の主治医・医療スタッフ(往診等)	27%
わからない	4%
その他	2%